

2011年7月6日

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL <http://www.t-s-r.co.jp>

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSRビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

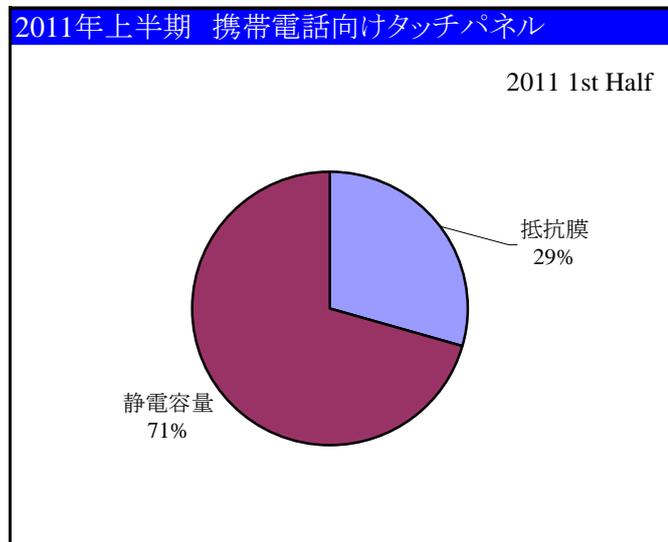
携帯電話向けタッチパネル搭載調査分析結果を発表

～ タッチパネル供給不足解消から差別化・低価格化ニーズへの対応へ～

株式会社 テクノ・システム・リサーチは、Touch Screen Breakdown of Mobile Phoneの市場分析結果を発表しました。

携帯電話市場は東日本大震災の影響で一部のセットメーカーで混乱が生じたものの、部品ベンダーによる早期回復と在庫調整により大幅な生産減少は見られなかった。また、スマートフォンへの買い替えや新興国向けの需要増加により、2011年上半期(2011年1月～6月)の携帯電話生産量は6億8,100万台に達し、スマートフォン比率は33%まで上昇する見込みである。

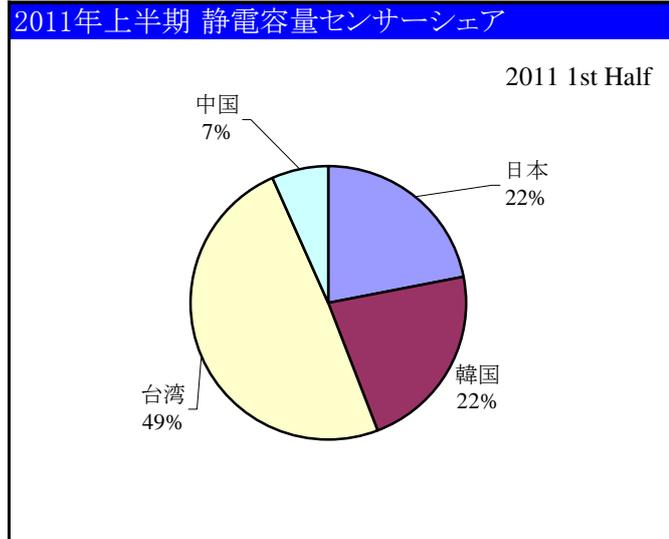
一方、同期の携帯電話向けタッチスクリーン市場は、スマートフォン向けの供給が増加し前年同期比52%増の2億6,300万枚に拡大する見込みである。特に、マルチタッチがサポートされたアンドロイド2.0以降、静電容量式への採用が進み対前年同期比135%増の1億8,600万枚まで増加する。抵抗膜式は主要顧客であったサムスン、LGでの静電容量式への切り替えと、ノキアのOS戦略の見直しにより供給量が減少に転じている。



アップル「iPhone」やアンドロイド対応のスマートフォン向けの需要増加に対して、供給不足であったタッチスクリーン部品であるが、センサー基板やIC、カバーガラスなどの構成部品の供給能力と組み立て能力の拡大により、需給バランスが安定しタッチスクリーンモジュールの低価格化が顕著になり始めている。特に、上位機種に限られていたスマートフォンでも100USD前後の低級機種に

まで搭載が進み、タッチパネルモジュールでもコスト要求が高くなっていることも要因となっている。一方、上位機種スマートフォンでは低価格化ニーズと同時に薄型化などの仕様要求が多様化している。その為、タッチパネル関連部品メーカーではセンサー基板の薄型化や組み立て歩留りの改善を進めると同時に、ディスプレイ部にタッチパネル機能を統合させたインセル・オンセルや、カバーガラスにタッチパネル機能を統合させたDPWなど新技術の供給を開始させている。

静電容量センサー基板はアップル向けの生産を行っているWitnekやTPKに加え、フィルム静電センサー陣営のYongFast、J-Touchによる供給が牽引し、台湾系センサー供給が49%を占めている。さらに、CMI-InnoluxやAUO、Hannster Touchなどでの供給量が高まることから、タッチパネル市場は台湾企業を中心に供給が行われる見込みである。ただし、ZTEやHuaweiをはじめ中華系スマートフォンの増加により、TrulyやBYD、Tianmaなどの中華系LCDメーカーによるタッチスクリーン供給も開始され、中華系メーカーによるタッチパネル供給も拡大する見込みである。一方、日系メーカーは日本写真印刷およびアルプス電気による供給が中心であったが、シャープやソニー、日立ディスプレイズ、東芝モバイルディスプレイなどの液晶メーカーによる供給が本格化し始め、日系液晶メーカーによる薄型センサーの供給やオンセルタッチパネルモジュール等の高付加価値タッチパネルモジュールの供給が開始されつつある。



カバーガラス市場では元板ガラスを供給するコーニングの独占状態が続いており、加工メーカーでは中華系 Lens OneやFuji Crystalが高い競争力を誇っている。カバーデザインの変化により、3D形状のカバーガラスの要望や樹脂化への要望もでてきており、センサー基板と同様にカバー部品市場においても多様化や低コスト化が進められている。

当社レポート「Touch Screen Breakdown of Mobile Phone」では、上記関連データに加えメーカーシェアやコスト動向など分析を行っております。

【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ
第2グループ 武花 勇一 (takehana@t-s-r.co.jp)
Tel: 03-3866-4505